

名称 5-HTP (ヒドロキシトリプトファン)

他名等 L-5-Hydroxy-tryptophan

備考

医薬品として使用実態があるか

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

神経伝達物質 5-ヒドロキシトリプタミン (セロトニン) の前駆体である。

「気分を高揚させる、睡眠障害を改善させる、うつの解消、頭痛の緩和」「食欲を抑制する」等の目的で、サプリメントとして多数販売 (個人輸入) されている。主にアフリカ原産植物 *Griffonia simplicifolia* が原料として使用され、*Griffonia Simplicifolia* 種子エキス、*Griffonia* エキス等として販売されていることもある。なお、*Griffonia Simplicifolia* は専ら医薬品に区分されている。

過去に、海外においてトリプトファンと同様の不純物による健康危害が出ており、1998 年には FDA より注意喚起を促すトークペーパーが出ている。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

神経伝達物質セロトニンの前駆体であり、専ら医薬品である。

名称 ビンカミン

他名等

備考

化合物名 vincamine CAS No. 1617-90-9

医薬品として使用実態があるか Yes

医薬品としてのビンカミン（およびその誘導体であるビンボセチン）は、日本国内においては、過去に医療用医薬品（脳循環改善薬）として脳梗塞および脳出血の後遺症に伴う慢性脳循環障害によるめまい、頭重、頭痛の改善などの目的に用いられたが、再評価の結果、有効性が確認できなかったため、2001年に市場より回収された。

毒性データ（LD50等）

LD50 1,200mg/kg (rat, oral), 460mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

(単離)

(*Vinca minor*) Schlitter, E., *et al.*, *Helv. Chim. Acta*, 36, 2017 (1953).

(総説)

Therapeutic approaches for memory impairments. Hock, F., *J. Behavioural Brain Research*, 66, 143 (1995).

Abstract A review, with 53 refs.

Pharmacol. treatment strategies for the treatment in dementia disorders were described. A selection of the 15 different classes described by Frostl and Maitre was made. In the paper, there were included and described in detail the following classes: piracetam-type compds., co-dergocrine-type compds., vasodilators and hemorheol. agents, cholinesterase inhibitors, ACTH and vasopressin analogs and angiotensin II and angiotensin converting enzyme inhibitors. Some compds. e.g. propentofylline, vincamine, THA and RA-octil were described in more detail.

その他注意すべき点

副作用（重大な副作用）：「無顆粒球症（0.1%未満）があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと（平成10年3月30日医薬品等安全性情報147号、厚生省医薬安全局）」

平成11年9月の中央薬事審議会における再評価審議の結果、「適切な臨床試験を実施し、当該資料の提出を待って再評価の結論を出すことが適当」である旨の決定に基づき、平成11年9月28日付医薬安全局長通知により新たな再評価指定を受け、プラセボを対照とする二重盲検比較試験を実施した結果、プラセボ投与群と効能に有意差がなかったことから各製造メーカーが自主回収を行った（平成13年8月～）。

ビンカミンは、健康食品（サプリメント）として「脳内の血流を改善し、記憶力・集中力を高める」として通販並びに個人輸入されており注意が必要である。

Safety (Natural medicines comprehensive database, P. 1288, vinpocetine)

Possibly Safe when used orally and appropriately. No significant adverse effects were reported in a study of people with Alzheimer's disease treated with large doses of vinpocetine (60 mg per day) for one year.

Pregnancy and Lactation: Insufficient reliable information available; avoid using

Botanical Safety Handbook ビンカミンを成分として含むヒメツルニチニチソウ (*Vinca minor* L.) は class 2d (Contraindicated with low blood pressure and in constipation) P. 122

The Complete German Commission E Monographs ヒメツルニチニチソウとその製品について、有効性に関して十分なデータがない、含まれるビンカミンは少量であり、また含有量の変動が大きいことから、摂取しても血中ビンカミン濃度の増加は期待できない、副作用として、白血球およびリンパ球の減少、血中グロブリン濃度の低下の疑いがあることなどから、治療の目的でヒメツルニチニチソウやその製品を摂取することは適切ではないと判断している。P. 364

評価：A

ビンカミンの誘導体であるビンポセチンはかつて医療用医薬品であり、無顆粒球症のような副作用が報告されている。

名称 プロスタグランジン

他名等 英名 prostaglandin

備考

医薬品として使用実態があるか Yes

プロスタグランジン E₁, E₂, F₂α 各種誘導体が医療用医薬品として使用されている。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品成分である。

評価 : A

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品である。

名称 プロテアーゼ

他名等 英名 proetase

備考

医薬品として使用実態があるか

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

プロテアーゼには、パパイン (システインプロテアーゼ) 等も含まれるので、記載法を考える必要があると思われる。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

消化酵素の一種である。

名称 **ブロメライン**

他名等 英名 bromelain (JAN)

備考

医薬品として使用実態があるか Yes

医療用消炎酵素製剤

毒性データー (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

医療用に内服及び外皮用（壊死組織の分解、除去、清浄化等に使用）として使用。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：A

タンパク分解力のある酵素剤であり、医療用消炎酵素製剤として使用されている。

名称 ペプシン

他名等 英名 pepsin

備考

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載（含糖ペプシン）

タンパク質消化酵素剤

毒性データ（LD50 等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

胃に分泌される酸性プロテアーゼである。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：A

消化酵素である。

名称 マルターゼ

他名等 英名 maltase

備考

医薬品として使用実態があるか

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

他名等に α -グルコシダーゼを加えるべきではないか。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

麦芽糖を加水分解する消化酵素である。

名称 メラトニン

他名等 松果体ホルモン

備考

化合物名 melatonin CAS No. 608-07-1

医薬品として使用実態があるか Yes (ヨーロッパでは医薬品として使用されている)

毒性データ (LD50 等)

LD50 >3,200mg/kg (rat, oral), 1250mg/kg (mouse oral)

近年、メラトニンの大量摂取による自殺企図が増加しているが、胃洗浄等の処置により死亡例は認められていない (中毒研究 11, 291 (1998))。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

(1) 「メラトニン」加藤堅一、日本臨床 43, 1161 (1991).

(2) 「外国製品、特にメラトニンによる中毒について」後藤 京子, 財津 佳子, 田村 満代, 波多野 弥生, 真殿 かおり, 前野 佳江, 中込 しげ子, 遠藤 容子, 中村 利夫, 黒木 由美子, 平出 敦, 吉岡 敏治, 杉本 侃、中毒研究、11, 291 (1998).

その他注意すべき点

睡眠補助剤を謳い、サプリメント (健康食品) として多数の利用があるので注意が必要である。

Safety (Natural medicines comprehensive database, P. 889)

Likely Safe when used orally or parenterally and appropriately, short-term. Melatonin seems to be safe when used for up to two months

Possibly Safe when used orally and appropriately, long-term. There is some evidence melatonin can be used safely for up to nine months in some patients.

Children: Possibly Unsafe when used orally or parenterally. Melatonin supplementation might adversely affect children. Young people up to the age 20 years produce melatonin endogenously in high levels. Melatonin levels are inversely related to gonadal development. Theoretically, exogenously administered melatonin might adversely affect gonadal development; use with caution.

Pregnancy: Possibly Unsafe when used orally or parenterally. High doses might inhibit ovulation, causing a contraceptive effect. It is not known if lower doses cause this effect. Until more is known, advise pregnant patients to avoid using melatonin at any dose.

Lactation: Insufficient reliable information available; avoid using

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

欧州で医薬品として取扱われており、松果体ホルモンである。またヒトに対する事故例が数十 mg で発生しており注意が必要である。

名称 ヨウキセキ

他名等

備考 鉍石

生薬名 陽起石 Actinolite または陽起石石綿 Actinolite asbestos の鉍石（中薬大辞典）、礬土を含まない角閃石 Hornblende の一種、透閃石 Tremolite、透緑閃石（緑陽起石）Actinolite の別あり（新訂和漢薬、p1024）陽起石（中薬大辞典）

医薬品として使用実態があるか Yes

<内服>丸剤、散剤として1～1.5 銭を服用する（中薬大辞典、p2599）。至宝三鞭丸（発売元 八目製薬）に含有。

毒性データ（LD50 等） Actinolite: TDL0 50 mg/kg ip rat.

含有成分の毒性データ（LD50 等） calcium oxide LD50 3,059mg/kg (mouse, ip), magnesium oxide TDL0 400mg/m³ (human, inhalation), silica LDLo 40 mg/kg (mouse, ip) 無毒との表記あり（新訂和漢薬、p1024）アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

Ca(Mg, Fe⁺⁺)₅[Si₄O₁₁]₂[OH]₂, そのうち、FeO 6～13%, CaO 13.8%, MgO 24.6%, SiO₂ 58.8%, H₂O 0.2%. (中薬大辞典、p2599)、透閃石は Ca₂Mg₅(OH)₂(Si₄O₁₁)₂、透緑閃石は Ca₂(Mg,Fe)₅(OH)₂(Si₄O₁₁)₂（新訂和漢薬、p1025）

主要な生理活性

命門を温め補う効能がある。下焦虚寒（下腹部の虚寒）、腰膝冷痺（腰膝の冷えと麻痺）、男子陽痿、女子宮冷（子宮冷）、微痕崩漏（腹中の硬結による子宮出血）を治す（中薬大辞典、p2600）。陰萎、子臓中血、寒熱腹痛、微痕、崩中（新訂和漢薬、p1024）。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：

ILO の定義するアスベストの一つであり、労働安全衛生法において使用禁止の対象となっている。医薬品としての使用実態はあるが、労働安全衛生法との関係は判断できない。

名称 ラクターゼ

他名等 英名 lactase

備考

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

β-ガラクトシダーゼ（ペニシリウム）、β-ガラクトシダーゼ（アスペルギウス）として局方収載

乳糖分解酵素製剤として使用

毒性データ（LD50 等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

他名等に β-ガラクトシダーゼを加えるべきではないか。

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：A

乳糖を加水分解する消化酵素である。

名称 リパーゼ

他名等 英名 lipase

備考

医薬品として使用実態があるか

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

含む場合その化合物は

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

対象化合物等

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

脂質を加水分解する消化酵素である。

名称 ルンブルキナーゼ

他名等 英名 lumbrokinase (Pub Med 23 件*; CA では 33 件) *lumbru kinase, で 1 件

備考

学名 (科名) *Lumbricus rubellus*

医薬品として使用実態があるか Yes

少なくとも、中国では、臨床実験が行われており、有効性が確認されている。

Progress in the clinical use of lumbrokinase, *Yaowu Shengwu Jishu* (2002), 9(1), 57-60,

Phase I clinical trials study on effects of lumbrokinase in normal subjects, *Zhongguo Linchuang Yaolixue Zazhi* (1997), 13(4), 199-203

Randomized, double-blind, placebo-controlled clinical trial of lumbrokinase capsules on the patients of blood rheology disorders with ischemic cerebrovascular diseases, *Zhongguo Linchuang Yaolixue Zazhi* (1997), 13(2), 65-70

韓国では大都製薬(株)より血栓の溶解作用、動脈硬化、血圧への効能を有する医薬品として販売されているようである。日本では、ワキ製薬が *Lumbricus rubellus* を養殖、体液や腸より粗酵素を抽出、精製して健康食品として、販売している。日経 (2005 年、2 月 26 日) には、医薬品の認可を得るには時間がかかるため、1999 年に健康食品の「龍心」として発売との記事がある。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか

主要な二次代謝産物等

分子量 20,000, heat-stable and displayed a very broad optimal pH rang, Compared with other serine enzymes, these enzymes contained very abundant asparagine or aspartic acid, and there was very little proline or lysine. (*Jpn J Physiol.* 1991;41(3):461-72.)

Crystal structure of earthworm fibrinolytic enzyme component a: revealing the structural determinants of its dual fibrinolytic activity. (Tang Y., et al., *J Mol Biol.* 2002 Aug 2;321(1):57-68.)

Molecular cloning, sequencing, and expression of a fibrinolytic serine-protease gene from the earthworm *Lumbricus rubellus*, *Journal of Biochemistry and Molecular Biology* (2004), 37(5), 574-581.

主要な生理活性

It is concluded that lumbrokinase is beneficial to the treatment of cerebral infarction. The effect of lumbrokinase is related to the inhibition of intrinsic coagulation pathway and the activation of fibrinolysis via an increase of t-PA activity. *Clinical Hemorheology and Microcirculation* (2000), 23(2-4), 213-218

重要文献

上記、臨床関係の論文と以下のルンブルキナーゼの最初の論文

A novel fibrinolytic enzyme extracted from the earthworm, *Lumbricus rubellus*.

Mihara H, Sumi H, Yoneta T, Mizumoto H, Ikeda R, Seiki M, Maruyama M., *Jpn J Physiol.* 1991;41(3):461-72.

その他注意すべき点

健康食品（龍心D X）に、欧米原産の赤ミミズ（レッドウォーム 学名：*Lumbricus Rubellus*）血栓溶解酵素ルンブルキナーゼが配合されている。また、栗本慎一郎前衆議院議員がルンブルクスルベルス配合のシンクリールという健康食品を販売している。また、ルンブルキナーゼを配合として売られている健康補助食品も散見される。

Botanical Safety Handbook には記載はない

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

その場合の化合物情報

評価：B

国外で医薬品として認識されており、安全性に関するデータがないので、専ら医薬品とすべきである。

評価基準

- A：安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
- B：国内外を含め医薬品としての使用実態があり、専ら医薬品と考えられる。
- C：さらに調査を続ける必要がある。
- D：現在のところ判断データがない。
- E：医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

1. 植物由来等

No.	名称	他名	薬用部位等	備考	学名	科名	基原植物和名等	医薬品としての使用実態	アルカロイド、毒薬・薬指定成分	麻薬・向精神薬・覚せい剤作用	毒性データ	B/S handbook	評価	評価理由
1	アオダモ	トネリコ	樹皮		① <i>Fraxinus lanuginosa</i> Koitz. ② <i>F. japonica</i> Blume	Oleaceae モクセイ科	①アオダモ ②トネリコ	x 民間薬			②LD50=1620 mg/kg (i.v., rat). 5400 mg/kg (s.c., rat)		E	我が国での使用は民間薬としてのものであり、強い毒性を持つ成分の含有は知られていない。ただし、食経薬は知られていない。
2	アラビアチャヤノキ	英名 khat, kat, qat	葉		<i>Catha edulis</i> Forssk	Celastraceae ニシキギ科	アラビアチャヤ	x		Cathine, Cathinone	LD50 > 2 g/kg (p.o., mouse)		A	アンフェタミンと同様の覚醒作用を持つ cathinone が含まれている。
3	アラビアモツヤク		全木		<i>Commiphora abyssinica</i> (Berg.) Engl.	Burseraceae ガンラン科	アラビアモツヤク、ミルラノキ	○?				<i>C. madagascariensis</i> <i>C. carensis</i> Jacq., <i>C. molmol</i> Engl. ex Tschirch <i>C. myrrha</i> (Nees) Engl.: Class 2b, 2d <i>C. mikulii</i> (Hook. ex Stocks) Engl.: Class 2b	A	ミルラに禁忌がある。ミルラの原植物は <i>Commiphora</i> sp. であり、本種も含まれると考えられるため、専ら医薬品としておくべきである。モツヤクと本項を合わせて <i>Commiphora</i> 属として区分を行うべきかどうか検討が必要である。
4	アルニカ		全草		<i>Arnica montana</i> L.	Compositae キク科	アルニカ	Com E, EP			精油は LD50 = 31 mg/kg (i.p., mouse), 123 mg/kg (p.o., mouse)	Class 2d, 2b	A	Com E および EP に記載されており、また、ヨーロッパで長く医薬品としての使用実態がある。浮腫を起すなど、皮膚への副作用が強い。また、アメリカ及びカナダで使用制限がある。
5	アロエ	ケーブアアロエ、キョウランアアロエ 英名 ①②③ Cape aloe ④ Curacao aloe	葉の液汁	根・葉肉は「非薬」、キョウランアアロエの葉は「非薬」	① <i>Aloe ferox</i> Miller ② <i>A. ferox</i> Miller と <i>A. africana</i> Miller との雑種 ③ <i>A. ferox</i> Miller と <i>A. spicata</i> Baker との雑種 ④ <i>Aloe barbadensis</i> Mill. = <i>Aloe vera</i> L.	Liliaceae ユリ科	①ケーブアアロエ ②キョウランアアロエ	① 腐方, USP, Com E ② USP, Com E			②LD50 = 250 mg/kg (i.p., mouse)	Class 2b, 2c, 2d	A	葉肉は食用であるが、葉の液汁は医薬品製造のために採取しているものであり、医薬品である。
6	イチイ<一位>	アララギ	枝・心材・葉	果実は「非薬」	<i>Taxus cuspidata</i> Siebold et Zucc.	Taxaceae イチイ科	イチイ、アララギ、オシロイ	○			タキノール・LD50 orally in the dog 9 mg/kg body-weight		A	Paclitaxel など、毒性の高い化合物が含まれているため。
7	イヌサフラン		種子		<i>Colchicum autumnale</i> L.	Liliaceae ユリ科	イヌサフラン	○			Highly toxic, with a lethal dose of 10 mg in humans. 種子には 0.4-1.2%、鱗茎には 0.2-0.5% 含まれる。		A	毒性の高いコルヒチン含有する。
8	イリス	英名 Orris root	根茎		① <i>Iris germanica</i> L. var. <i>florentina</i> Dykes, ② <i>I. germanica</i> L. ③ <i>I. pallida</i> Lam.	Iridaceae アヤ科	①ニオイイリス(ニホアヤメ、シロハアヤメ) ②ムラサキイリス ③シロイリス	○ Com E			①②LD50 = 500 mg/kg (i.p., rat) ③なし	Class I	B	医薬品としての使用実態があり、また、食経薬は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましい。

9	イレイセン<威重仙>	シナボタンソル	根・根茎	薬は「非医」	① <i>Clematis chinensis</i> Osbeck, ② <i>C. manshurica</i> ③ <i>C. hexapetala</i> .	Ranunculaceae キンポウゲ科	①オキシマポタンソル(シナボタンソル) ②タチセンニンソウ(ノウライセンニンソウ) ③イトサポタン(サンリョウ)	①局方	① protoanemoninは炎症性が強い。 ② protoanemoninは炎症性が強い。	protoanemonin: LD50 = 190 mg/kg (mouse, i.p.)	① Class 1, ②③は記載無し	A	炎症性の強い protoanemoninの含有が確認されている。
10	インテンコウ<樹藤菫>		花穂・荷花全草		<i>Artemisia capillaris</i> Thunb.	Compositae キク科	カワヨモギ(オオヨモギ、カリクサ)	局方			Class 2b	B	局方に記載されており、使用形態があり、食経験は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましい。
11	インドサルサ	英名 Indian sarsaparilla, hemidesmus, East Indian sarsaparilla	根		<i>Hemidesmus indicus</i> (L.) Shult.	Asclepiadaceae ガガイモ科		不明	不明		Class 4	D	データ不足だが、外用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、食経験も報告されており、積極的に食品と判断する材料もない。
12	インドジャポク風<印度蛇木風>	インドジャポク、ラクオルフアイア 英名 Indian snake-root, <i>Rauwolfia</i> radix	根・根茎		<i>Rauwolfia</i> 属 ① <i>R. serpentina</i> (L.) Bentham ex Kurz ② <i>R. heterophylla</i> ③ <i>R. vomitoria</i> , <i>R. caffra</i> , <i>R. obscura</i> , <i>R. semper florens</i> , <i>R. natalensis</i>	Apocynaceae キョウチクトウ科	①インドジャポク Com E 含有成分レセルピン等 は、局方	不明	reserpine, rescinnamine, deserpidine, ajmaline, 他多数 <i>rauwolfia alkaloids</i> oral mouse LD50 690 mg/kg, subcutaneous mouse LD50 147 mg/kg a mixture of alkaloids form <i>R. serpentina</i> oral, rat, LD50 183 mg/kg i.p. LD50 100mg/kg	① LD50 i.v. 1150mg/kg 他	A	A	レセルピン等毒性の高いアルカロイドを含む(アルカロイド混合物での急性毒性が類似薬相当)。
13	インドボダイジュ<印度菩提樹皮>		樹皮		<i>Ficus religiosa</i> Mor var <i>thumbergianum</i> Nakai	Moraceae クワ科	インドボダイジュ x 中薬大辞典	不明	不明	LD50 i.p. mouse >500mg/kg	E	E	毒性の高い、二次代謝産物の報告はなく、LD50値を考慮合わせると、食薬区分の見直し対象とみられる。ただし、民間薬として外用剤として用いられる、皮なめしや染料として使用されるなど、積極的に食品と判断する材料もない。
14	インヨウカク<溜羊菫>	イカリソウ 英名 Epimedium herb	地上部		① <i>E. sagittatum</i> Maximowicz, ② <i>E. koranum</i> Nakai, ③ <i>E. grandiflorum</i> Morren var. <i>thumbergianum</i> Nakai ④ <i>E. sempervirens</i> Nakai	Berberidaceae スズクサ科	①ホザキイカリソウ ②キバナイカリソウ ③イカリソウ ④キワイカリソウ	局方	magnoflorine	DNA repair, <i>Bacillus subtilis</i> 100g/L (crude drug extract)	Class 2d	A	局方収載医薬品である。また、アルカロイドとして magnoflorineを含む。さらにBISHで、長期使用の禁止や副作用に関する記載がある。
15	ウマノスズクサ属<馬新草属>		全草		<i>Aristolochia</i> 属	Aristolochiaceae ウマノスズクサ科	x 生薬として中国で用いられていたが、 <i>Aristolochic acid</i> を含むので、流通禁止	不明	<i>A. debilis</i> : ウマノスズクサ <i>Aristolochic acid</i> A, <i>aristolochiamine</i> , <i>cycloanol</i> 等, <i>A. conaria</i> : マルバノウマノスズクサ <i>Aristolochic acid</i> is present in many species of <i>Aristolochia</i>	<i>A. indica</i> , TDL0 525mg/kg oral mouse, LD50 375 mg/kg i.p. <i>A. moupinensis</i> LD50 3560 mg/kg oral mouse 他多数	<i>A. dematilis</i> , <i>A. debilis</i> , <i>A. serpentaria</i> Class 2b	A	発ガン性が疑われ腎臓癌をおこす <i>Aristolochic acid</i> を含む。
16	ウヤク<烏薬>	テンダイウヤク	根	薬・実ば「非医」	<i>Lindera srychnifolia</i> Fernandez-Villars	Lauraceae クスノキ科	テンダイウヤク	局方	<i>boldine</i> , (+)-reticuline LD50: mouse, i.p. 56 mg/kg, rat, i.p. 216 mg/kg	同属植物 <i>Lindera melatiomacea</i> , <i>Lindera griffithii</i> (根以外) LD50: 121 mg/kg i.p. mouse	A	A	局方収載医薬品であり、樹皮である (+)-reticulineを含む。

17	ウワカウルシ	クマコケモモ 英名 Uva Ursi Leaf	葉						不明	不明	arbutin: TLBO, 13.6g/kg, rat, oral	2b, 2d	B	局方収載医薬品であり、ComEにも記載され、BSHに禁忌が記載されている。
18	ウンカアロポ	英名 umkalobabo	根								申請中のものは 48.5mL/kg	P. graveolens はclass 1	B	ドイツで医薬品として申請中。医薬品を意図したメタアナリシスの文献がある。
19	エイジツ<莖葉>	ノイバラ	果実・偽果						局方	Yes 平成17年度の報告書を参照のこと	LD50 i.p. mouse 127g/kg (root extract)		B	局方収載医薬品であり、本研究により含窒素化合物が単離された。
20	エニシダ<金雀枝>		枝・葉						○ O	sparteine (quinolizidine alkaloid) lupanine derivatives: ester alkaloids	>1 g/kg i.p. mouse sparteine: i.p. 18 mg/kg mouse	Class 3	A	劇薬であるsparteineを含む。またBSHclass3で薬指亦薬指相当。
21	エンゴサク<延胡索>	エンゴサク	塊茎						局方	i-corydaline, protopine, bulbocapnine, d-tetrahydropal matine, i-candamine, copisatine, dehydrocorydaline, l-tetrahydrocolumbamine, a-allocryptopine l-tetrahydrocopsisine	(C. yanhusuo) Class 2b	A	アルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
22	エンジュ<槐花>	カイカ、カイカク	花・花蕾・果実						局外生規		rutin: LD50 2g/kg (rat ip)		B	アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に取載される重要生薬であり、専ら医薬品と考えられる。
23	オウゴン<黄花仔>		根・葉						x 中国民間薬	ephedrine, pseudoephedrine, N-methyltyptophan methyl ester, peganine, vasicinol, vasicinone	Extract: LD50 3g/kg (mouse oral)		A	覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
24	オウゴン<黄花母>	キンゴジカ	全草						x 中国民間薬	ephedrine (覚醒剤原料)			A	覚醒剤原料成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
25	オウゴン<黄香>	キバナオウギ、ナイモウオウギ	根						局方	γ-aminobutyric acid (韓国産オウギ)	580 mg/kg mouse	class 1	B	局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
26	オウゴン<黄香>	コガネバナ、コガネヤナギ	根						局方			class 1 (S. lanteri flora)	B	局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。
27	オウゴン<黄柏>	キハダ	樹皮						局方	berberine, palmatine, magnoflorine, phellodendrine, jatrorrhizine	Cortex water extract: TDLO 3,360mg/kg (mouse oral)	class 2b	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
28	オウゴン<板皮>	ヤマザクラ	樹皮						局外生規		同属植物 P. emarginata, wood extract: TDLO 14g/kg (mouse oral)		B	局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

29	オウレン<黄連>	キクハオウレン	根茎・ひげ根	薬は「非医」	① <i>Coptis japonica</i> Makino ② <i>Coptis chinensis</i> Franchet ③ <i>Coptis deltoidea</i> C. Y. Cheng et Hsiao ④ <i>Coptis leeta</i> Wallich	Ranunculaceae キンポウゲ科	①オウレン キクハオウレン	局方	berberine, palmatine, jatrorrhizine, coptisine, worenine, magnoflorine	①root extract: LD50 866mg/kg (mouse oral)	②、C. <i>grewia</i> <i>and</i> <i>Class 2b</i>	A	アルカロイドを含有しており、かつ局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
30	オンダ<縮脲>	英名 Male Fern	根茎・葉茎		① <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai, ② <i>D. filix-mas</i> (L.) Schott	Aspidiaceae オンダ科	①オンダ ②オンマ	○ Com E		190.5 mg/kg ip, 853.7 mg/kg po.	①記載なし ②2a, 2b, 2c, 3	A	Commission Eにおいてオンダは駆虫作用とともに強い細胞毒性を有し、経口摂取による中毒症状も報告されており、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる
31	オノニス	英名 Spiny Resharrow root	根・根茎		<i>Ononis spinosa</i> L.	Leguminosae マメ科		○ Com E		Ononis 無し		B	Com Eに収載されており、根は含有試験がないことから、専ら医薬品としておくことが望ましい。
32	オモト<万年青>		根茎		<i>Rohdea japonica</i> Roth.	Liliaceae ユリ科	オモト	Yes?	強心配糖体: rhodexin A, rhodexin B and C, rhodein, rhodotoxin	rhodexin A : LD50 = 0.106 mg/kg, cat, i.v.		A	毒性の強い強心配糖体 rhodexin A を含む。
33	オンジ<蓮花>	イトヒメハギ	根		<i>Polygona tenuifolia</i> Willd.	Polygonaceae ヒメハギ科	オンジ (イトヒメハギ)	局方 Com E			Class 2d	B	局方および漢方処方に収載されている重要生薬である。また、潰瘍と胃炎に禁忌があり、同属植物に劇物 podophyllotoxin の含有が知られている。
34	カインク属<海葱>	英名 Squill	鱗茎	カインク(海草)の全薬は「非医」	<i>Urginea</i> 属、主に <i>U. maritima</i> Baker	Liliaceae ユリ科	カインク	Com E	<i>U. maritima</i> : 強心配糖体ブ アジエノリド (scillarenin, A, scillitroside, proscillaridin, glu coscillarin, A, scilliphaeoside, glucoscillipha eoside, glucoscillitroside, scillarenin, scilloidin)	scillarenin A: LD50 intravenously in cats 0.143 mg/kg body-weight scillitroside: LD50 orally in male rats 0.7 mg/kg body-weight		A	scillitroside など有毒なブアジエノリド(強心配糖体) 数種を含む。
35	カイトクヒ<海桐皮>		樹皮		<i>Erythrina variegata</i> L. var. <i>orientalis</i> (L.) Merr. (=E. <i>indica</i> Lam.)	Leguminosae マメ科	デイゴ	○	erysopine, erythraline, erysodine, erysotrine	erysopine: LD50 = 18 mg/kg (mouse, oral) erythraline: LD50 = 80 mg/kg (mouse, oral) erysodine: LD50 = 155 mg/kg (mouse, oral)	Class 1	A	erythraline など有毒なアルカロイドを含む。
36	カガミグサ<白薇>		根		<i>Ampelopsis japonica</i> Makino	Vitaceae ブドウ科	カガミグサ	△				E	わが国では医薬品としては使用実態が乏しく、毒性の強い成分の含有も知られていない。ただし、生薬白薇の基原植物は中国で混雑があるため、今回の判断はあくまで植物カガミグサのみに関するものである。
37	カゴウク<夏枯草>	ウツボグサ	全草		<i>Prunella vulgaris</i> Linne var. <i>ilacina</i> Nakai	Labiatae シソ科	ウツボグサ	局方			Class 1	B	局方に収載されており、医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましい。
38	カシ<罌子>	ミロハラン	果実		<i>Terminalia chebura</i> Retz.	Combretaceae シクンソ科	ミロハラン	局外生規		LD50 = 175 mg/kg (mouse, i.p.)	Class 2d	B	局外生規収載で、漢方処方に配合されており、医薬品としての使用実態がある。また、緩下作用のある sennoside A を含有している。
39	カシユウ<何首烏>	ツルドクダミ	塊根	茎・葉は「非医」	<i>Polygonum multiflorum</i> Thunb.	Polygonaceae タデ科	ツルドクダミ	局方	根にアントラキノン類のグリコ ファンール、エモジン、レイン を含む		Class 2d	A	局方に収載されているなど医薬品としての使用実態があり、劇薬相当のエモジンを含む。
40	カスカラサグラダ	英名 Cascara sagrada bark	樹皮		<i>Rhamnus purshiana</i> DC	Rhamnaceae クワメドモト科	カスカラサグラダ (Cascara Sagrada)	Com E, EP		Rhamnus 無し	Class 2b; 2c; 2d	A	ヨーロッパで医薬品として使用されており、瀉下作用を持つ anthrone 誘導体が 5% 以上含まれている。